

伊トリエステで開催された若手ファッションデザイナーのコンクール「イツ・コンテスト2022」(トリエステ市イツ財団主催)は、コロナ禍によるデジタル開催を経て3年ぶりのリアル開催となった。同コンクールは今年20周年を迎え、過去のファイナリストの作品を集めたアーカイブミュージアムも新拠点に移転オープンした。  
(ミラノ=高橋恵通信員)

## 若手デザイナーコンクール「イツ・コンテスト2022」

# 伊トリエステで3年ぶりリアル開催

今回のファイナリストは、ファッション13組、アクセサリー3人。日本からも、神奈川県でデザイン事務所「ピオトープ」を運営し、「ここのがっこう」にも学んだ田中優大、杏奈、パーソンズ美術大学院出身の北村元統がノミネートされた。

大賞にあたる「イツ・アカデミー・アワード」を獲得したのは、英国のチャーリー・コンスタンティノー。イヌイット族がどのように厳しい自然環境に適応してきたかを調査し、現代の素材を用いて、異常気象に耐えうる機能性に優れたカラフルなコレクションを見せた。賞金1万5000円に加え、半年間のピッティ・イメージネのメンターシップが贈られた。メディアが選ぶ「イツ・メディア・アワード」は、スロバキアのマタ・ドゥリコヴィツ。サステイナブル(持続可能な)とクチュールの両立を目指したもので、でんぶんバイオプラスチックを用いて、未来的でロマンティックな服を作った。

その他の賞は、開催パートナーのオー・ティー・ピーグループによる「オー・ティー・ピー・アワード」、「ヴォーグ特別賞」、伊ファッション評議会の「イツ・責任ある創造性アワード」。コンテスト参加者がアート作品を出品する「イツ・アートワーク・アワード」は、日本の田中優大、杏奈が選ばれた。おとぎ話やゲームの世界をベースに作った架空の鳥の生き物の

## コロナ下の「内側の感情」にフォーカス



大賞を獲得したチャーリー・コンスタンティノーの作品

ようなビニール製キャラクターを組み合わせる、カラフルで楽しい立体作品。彼らが出品したファッションのコレクション「ウェアラブル・トイ」(着られるおもちゃ)と共通するものだ。

今回は、サステイナビリティ、服や出身国の伝統などをベースにした服作りが目立った。また、祖母の人生やライフスタイルに注目したコレクションがいくつも登場した。主催のパルバラ・フランケン代表は、「コロナ禍によって新たな感情が生まれたといえる。声を大にする表現よりも、内側の感情にフォーカスしたものが多かった。手仕事の再評価も目立った。サステイナビリティは当然のこととして捉えられ、さらに深めたものも増えた」と語る。

州と欧州政府のサポートを受け、トリエステ貯蓄銀行財団が提供する宮殿内、140平方メートルのスペースに移転オープンしたアーカイブミュージアム「イツ・アカデミー」では、初の展覧会「現代ファッションのエボリューションの20年」を開催。「アカデミー」は、「アーカイブ」と「アカデミー」から作られた造語だ。イツ・コンテストの20年間にわたるファイナリストのポートフォリオを含む作品を展示する。

また、イツは25年の欧州文化首都となるトリエステ近郊のゴリツィアで、同年夏に開催予定の、世界のクリエイションが集結する「創造性フェスティバル」と連携していく計画だ。



「イツ・アートワーク・アワード」は日本の田中優大、杏奈

イツ・アカデミーの展示

